様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１１３０７

研究課題名（和文）マスターズスポーツメガ大会の開催による地方自治体の地域活性化に関する縦断的検証

研究課題名（英文）The Longitudinal Research on Regional Activation of Local Communities by Hosting Masters Sport Mega Event

研究代表者
長ヶ原　誠（Chogahara, Makoto）

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：００２２７３４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ワールドマスターズゲームズ関西大会の準備期において、開催地域での様々な便益や成果が実証された。それらは、トップスポーツの「観戦型」国際的スポーツイベントで見られる社会経済的な活性化に加え、ワールドマスターズゲームズがスポーツへの直接的な「参加型」の国際的オープンイベントである特徴から、市民レベルでのスポーツ活動の促進や健康増進への影響を中心に、対人交流、地域交流、世代間交流、多文化交流等の活性化、観光体験や文化的体験に伴う地域の活性化、生涯スポーツ文化・健康文化の社会活性化、生涯教育や加齢教育に関わる様々な教育的効果が、特にプレ大会開催を通じてホストにもたらされていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、従来のメガスポーツ大会の主なホスト役であった大都市開催によるハード面・経済活性化研究とは区別され、小中規模自治体による大規模大会を通じたソフト面の生涯スポーツ推進に関わる地域活性化研究としての独自性をもつ。分析対象となるWMG関西大会55のホスト中、人口10万人未満の市町が42箇所含まれ、各市町の国際大会開催の準備期に着目しした地域活性化効果を実証・可視化することにより、これまでに類を見ない地方自治体の生涯スポーツ推進の可能性を示唆する学術データとスポーツによる地方創成モデルを提示した。

研究成果の概要（英文）：In the preparation for the Kansai World Masters Games, various benefits and outcomes were identified in host cites. In addition to the socioeconomic revitalization, the World Masters Games has the characteristic of being an event that is open internationally and had a direct impact on kindling interest in participation in sports. Therefore, focusing on the promotion of sports activities at the national level and its impact on the promotion of health and sports industries and regional activation through interpersonal, regional , intergenerational, and multicultural exchanges, as well as through tourism experience, social activation of lifelong sports culture, health culture, and various educational effects related to lifelong education are being brought into the host cities/nations especially in pre-events held in Kansai.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：生涯スポーツ　マスターズスポーツ　国際スポーツ大会　ホスト効果　地域活性化　アクティブエイジング　縦断的研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景
五輪大会を代表とするメガスポーツ大会をテーマとした研究領域では、大会開催のインパクトや効果に着目したレガシーやリバレッジ等の報告が増加しており、ハード・社会経済面での内容を中心に研究成果が集中し、特に招致実績の多い大都市レベルでの研究蓄積が多い。その一方で、一般の成人・中高年が出場可能な参加型メガスポーツ大会の世界的傾向として、マスターズスポーツに関わる大会開催と研究的関心が高まってきており、これらの大会開催地には地方都市が多く含まれ、特に開催実績の多いオセアニア・欧米諸国では開催数が増加している。研究活動もこれらの開催国を中心に展開され、この中でも大会効果に関しては、開催地の成人人口スポーツ実施率や組織化率を含め、スポーツボランティア、観戦・消費行動を含めたスポーツ参画人口の増加、健康増進活動や生涯スポーツ関連事業の活性化、観光振興、生涯学習・加齢教育に関わる啓発効果等に挙げられる波及効果が報告されている。これらは、五輪大会を代表とするメガスポーツ大会の開催効果に比べ、より一般人のスポーツ参画や地域・社会・教育的な効果の可能性を示し、特に高齢化の進展するわが国では成熟した生涯スポーツ文化推進に向けた事業の１つとしてその有効性が期待される。
しかしながらこの分野に着目した研究活動は未だ少なく、前述した開催効果に関する報告でも主に大会組織委員会からの事例分析や研究機関による回想法的なインパクト調査や、単独開催都市における大会前後の変化を示したものが殆どであり、大会によってどのような影響が開催地の個人や地域に対して見られたのか実証的結果は明らかとなっていない。この課題背景として、従来のマスターズスポーツを含めた参加型メガスポーツ大会の多くは、ゲストとなる大会参加者を対象とした大会参加動機や大会満足度、再来志向等の研究数は多い一方で、ホストとなる大会開催地を分析対象とした研究枠組の設定が困難であったことが一因として挙げられる。特に開催前・開催時・開催後におけるホスト地としての活性化や発展過

程、特に市民全体の健康増進や活動的なライフスタイルの促進への具体的影響を実証するために必要な複数の対象地域と追跡可能な対象者との連携、理論的枠組と構成概念の測定化、影響プロセスの分析手法に関する研究方法論的な課題が指摘されている。マスターズススポ―ツ大会の中でも、最大規模のメガ大会であるワールドマスターズゲームズを対象とした研究では、開催地における潜在的な生涯スポーツ実施層を底上げする啓発大会として位置づけられているものの、研究面では大会出場選手を対象とした調査結果に限られており、開催地において仮説的に述べられている「する」「観る」「支える」「買う」のスポーツ関連行動の生起や活性化が検証されていない。特に大会ホストとして招致実績の少ない高齢化が加速化する小規模の地方自治体における研究知見はさらに限られている。今後は、最も高齢化が進展する中でメガスポーツ大会を連続開催するわが国を含め、各自治体において各種の参加型メガスポーツ大会の今後の招致や開発の関心が高まっているが、「何のための大会開催か」という開催意義を、超高齢社会の状況と課題の中で学術的に支援していく研究知見と共に、メガスポーツ大会開催によるアクティブエイジング（活動的高齢化）に影響度を総合的に測定し評価することのできる学術的方法論の発展が望まれる。
これらの学術的背景や課題の中で、本研究の核心となる学術的な「問い」は、「地方自治体がホストとなる参加型メガスポーツ大会の開催は、その在住市民のスポーツ参画潜在層に対し、大会前・大会期・大会準備期を通じてどのような影響をもたらすのか？ 同時に、ホストとなる高齢化の進展する地方自治体では、地域全体のアクティブエイジング（活動的高齢化）の活性化に対し、参加型メガスポーツ大会開催による波及効果が見られるのか？」というテーマに集約される。このテーマ追求に向け、東京五輪の翌年に関西 9 府県の広域開催となるワールドマスターズゲームズ（WMG）関西 2021 年大会を研究対象として、開催前年から開催後までを通じた地方自治体と住民に接近し追跡研究を実践する。

２．研究の目的
一般の成人・中高年が出場可能な参加型メガスポーツ大会とアクティブエイジングを象徴する啓発大会として特徴づけられる WMG の 2021 年開催は、大会準備事業により地域の生涯スポーツ振興に関わる様々な影響や事象が大会前から表出し、大会中・大会後への影響過程を分析できる機会となる。本研究では、広域圏 9 府県地方自治体の人口規模と高齢化率と共に大会参画度（主催、支援、非関与）により自治体を類型化し、各自治体群を対象とした住民スポーツ参画状況と活動的高齢化の追跡分析を通じて、参加型のメガスポーツ大会が開催地に及ぼす地域活性化効果の具体的内容を縦断的な視点から明らかにすることを目的とする。
本研究での学術的独自性と創造性については以下の５点が挙げられる。
①複数地方自治体におけるメガスポーツ大会研究として：従来の観戦型メガスポーツ大会で

主流であった単独の大都市開催によるインパクト研究と異なり、今回の複数の小規模自治体を含めた開催準備からのホスト効果に関する追跡研究は先駆的であり、メガスポーツ大会による従来の活性化効果やレガシーの視点を広げるスポーツの新たな価値を提示できる。
②大会参画度による活性化効果の縦断比較研究として：複数県広域開催による参加型メガスポーツ大会では、自治体と個々人における大会参加関心や関与レベルが異なるため、研究面では、最近注目されている大会参画度（エンゲージメント）による効果の違いが検証可能となり、本研究よる自治体と個人の大会参画度の類型化とその効果の縦断的検証は世界的にも初の試みであり、前年の東京五輪大会との相乗効果についても提示可能となる。

３．研究の方法

本研究の対象である地方自治体については、2019 年 4 月に本研究グループと大会組織委員会で調査した WMG 関西の大会参画度（大会主催：54、大会支援：63、大会非関与：55）により分類した計 172 箇所が自治体モニターとして、住民については 2018 年 12 月に事前調査で実施した関西圏民スポーツ調査の対象者を大会参画度で分類した（大会選手・同伴者：5.6%、ボランティア・支援者：7.8%、応援・観戦者 18.4%、非参画者：68.2%）計 1 万人が圏民モニターの調査対象者となる。これらの自治体モニターと圏民モニターに対して、健康体力づくり事業財団との共同研究により開発した活動的成熟度を測定するアクティブエイジング指標を、それぞれ地域活性度指標（中高齢者を対象とした健康増進事業、生涯スポーツ推進事業、社会参加推進事業）と個人活性度指標（健康増進活動、生涯スポーツ活動、社会参加活動）から構成される項目群を用いて、神戸大学アクティブエイジング研究センターによる WEB 調査を 2020 年から 2022 年までの３時点（11 月～12 月）で実施していく。これらのデータ収集による各年の主要分析テーマは以下の通りである。

①2020 年：大会準備期分析（研究代表者・研究分担者・研究協力者）
1)人口規模・高齢化率・大会参画度による自治体類型化と地域活性度との関連度
2)個人大会参画度による個人活性度への影響度

②2021 年：大会開催期分析（研究代表者・研究分担者・研究協力者）
1)自治体類型化（2020 年）による地域活性度の変化量（2020 年～2021 年）への影響度
2)個人大会参画度による個人活性度の変化量（2020 年～2021 年）への影響度

③2022 年：大会開催後評価（研究代表者・研究分担者・研究協力者）
1)自治体類型化（2020 年）による地域活性度の変化量（2020 年～2021 年）への影響度
2)個人大会参画度による個人活性度の変化量（2021 年～2022 年）への影響度

上記の自治体モニターと圏民モニター調査による定量的分析に加え、特に大会参画と高齢化率の高い自治体 37 市町に対しては、各自治体の開催地立候補の段階から 2020 年までの大会関連事業について、各自治体の事業を実行委員会資料と関係職員調査を中心にデータ収集と内容分析を各年の調査に合わせて並行して実施する。分析にあたっては過去の WMG や大陸別大会の大会ガイドラインを元に国際マスターズゲームズ協会との共同研究により開発した「World Masters Games KPI」における各大会準備ステージの重要事業項目を参考に事業データをカテゴリー化し、大会事業と住民の大会参画度との時系列関連分析を行い、上述したアクティブエイジング指標の変化量に対する大会準備事業の影響プロセスを具体的に提示する。

４．研究成果

2020 年のコロナ感染症の世界的流行により、2021 年に開催予定であったワールドマスターズゲームズ関西大会は 2027 年に延期開催されることになった。この経緯により本研究はこれまでの開催準備における諸効果や便益と共に、これらが今後の開催準備に向けて継続・継承されていくかを縦断的に検証した。その結果、ワールドマスターズゲームズ関西大会の準備期において、特にホストとなる自治体での様々な便益や成果が実証された。それらは、トップスポーツの「観戦型」国際的スポーツイベントで見られる社会経済的な活性化に加え、ワールドマスターズゲームズがスポーツへの直接的な「参加型」の国際的オープンイベントである特徴から、市民レベルでのスポーツ活動の促進や健康増進への影響を中心に、対人交流、地域交流、世代間交流、多文化交流等の活性化、観光体験や文化的体験に伴う地域の活性化、生涯スポーツ文化・健康文化の社会活性化、生涯教育や加齢教育に関わる様々な教育的効果が、特に開催地におけるプレ大会開催を通じて生起していることが明らかとなった。これらの諸効果と便益の具体的内容と共に、中間検証に基づいて今後の活性化が期待できる効果の内容は、以下の分野と事象に集約される。

1. 生涯スポーツの質的向上と実施人口の拡大促進

①国内外のマスターズスポーツ関連大会と関西 WMG に対する認知向上と参加啓発に向けたキャ

ンペーン事業の活性化
②成人・中高年を対象とした生涯スポーツ組織やスポーツクラブの活性化
③RWC と東京五輪大会と連動した「観る」から「する」へのスポーツ啓発事業の展開

2. 活動的な健康長寿社会の創造促進
①スポーツや運動習慣促進による予防医学的視点からのヘルスプロモーション事業展開
②家庭・教育機関・職場・地域組織を対象とした身体的活動性を伴う生涯健康増進
③マスターズの活動成熟性をテーマとしたアクティブエイジング（活動的加齢）の推進

3.生きがいに満ちた生涯活躍社会の実現
①大会参加プロモーションを通じた熟年期における生涯スポーツ・セカンドキャリア支援
②大会ボランティアや応援観戦への参加を通じた応援文化と社会貢献への気運醸成
③目標・憧れ・夢の追求による自己実現と人生活性化としてのマスターズ文化推進事象
○年齢、性別、障がいによる差別なく、誰もが生き生きと個々人の目標達成を目指す

4. 交流型アクティブコミュニティの再生
①大会に向けた「する」スポーツと「ささえる」スポーツの地域組織の活性化各開催地における担当競技のプレ開催による地元住民オープン大会の実施
②地域文化・観光資源情報の発信を通じた地元への帰属意識や愛着心の醸成
③関西 WMG 関連の開催地・会場地を中心とした生涯スポーツ交流拠点としての育成

5. 地域環境の質的成熟化
①ユニバーサルデザインの視点による成熟した活動的地域社会の質的創造
②健康・スポーツ文化が融合した都市環境デザインと再構築
③豊富な自然環境・エリアによるアウトドアスポーツ文化の拡大と共生の実現化

6. 関西広域力による地域社会の活性化
①関西による広域連携事業の推進と広域レガシー創出事業の展開
②大会開催に向けた関西圏内の地域連携事業や合同事業の活性化
③関西 WMG に関連する関西広域事業や全国計画との連携化

7. 和と関西がもつ観光文化力の発揮
①関西圏における広域スポーツツーリズム事業の推進と基盤整備
②大会準備を通じた日本・関西のインバウンド推進事業とシステムの整備促進

８.既存産業の活性化と新産業分野の成長
①マスターズスポーツの視点を取り入れた総合的な生涯スポーツ産業の拡大促進
②成人・中高年を対象とした健康・ライフスタイル関連産業の活性化
③超高齢社会の活動的成熟を支援するアクティブエイジング関連産業の可能性開拓

９.日本の伝統力と新たな成熟文化の発信
①関西の各地域の伝統と特徴を表出させる文化プログラムの展開事業の推進
②マスターズ（熟達・熟練）を象徴する日本・関西匠文化の発信
③成熟した新たな共生文化とボランティア文化の創造と発信

10.関西の国際化と KANSAI ブランド向上の加速化
①国際大会のホスト圏としてふさわしい大会に向けた関西国際化の推進
②国際大会を契機とした関西のおもてなし精神の発揮と世界発信
③大会前や期間中における国内外各地での関西ブランド発信とポテンシャルの拡大

11.アジアへのマスターズムーブメントの拡大
①アジア参加国と参加者の拡大に向けた大会プロモーションとネットワーク事業の展開
②アジアが表出され共感する大会準備と大会期間中に向けた事業検討
③マスターズムーブメントのアジア発信拠点形成に向けた先導的事業の推進

12.多様性を有した世界観の拡大と国際貢献
①国際スポーツイベント開催を通じたスポーツ振興に関わる国際交流と国際化の推進
②多文化の理解促進と国際感覚の醸成によるグローバル人材の育成支援
③世界的視野での社会的課題に対する認識の深化と国際貢献への発展

13. 教育活性化によるエンパワーメント
①国際大会参加・参画を通じたスポーツ関係者や大会関係者へのエンパワーメント
②大会ボランティアのマスターズスポーツ支援を通じたサポート力の向上と成熟化
③都市・地域観光ボランティアやユース世代を対象としたホスピタリティ教育の展開

14. 科学振興と関西インテリジェンスの発信
①スポーツ・健康・観光等に関わる専門知見の発達と学際・国際・職際的研究の推進
②超高齢社会の社会課題解決を図る先駆的研究成果の蓄積と発信
③研究成果を生み出す基盤・体制・システムに関する科学イノベーション事業の開拓

15. 活力ある人生観の啓発と未来像の継承
①オリンピック・パラリンピック教育と連動したマスターズ教育の推進
②「スポーツ・フォー・ライフ（人生を豊かにするスポーツ)」としての生涯スポーツ教育
③マスターズ世代からユース世代を対象とした啓発事業と継承事業の展開

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 松崎　淳、長ヶ原　誠	４．巻 19
２．論文標題 不確実な状況下での国際生涯スポーツイベントの開催判断過程の検討	５．発行年 2022年
３．雑誌名 生涯スポーツ学研究	６．最初と最後の頁 13－25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 谷めぐみ、長ヶ原誠、松村雄樹、青山将己、松崎淳、乾順紀、三浦敬太、島津大地、山下耕平	４．巻 30
２．論文標題 幼少年期の運動・スポーツ推進と成人の運動・スポ―ツ参与の関連	５．発行年 2021年
３．雑誌名 体育・スポーツ科学	６．最初と最後の頁 11－22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松崎　淳、長ヶ原　誠	４．巻 17
２．論文標題 国際生涯スポーツイベントにおけるコミュニティ・キャパシティの形成過程に関する研究：小規模開催地に着目して	５．発行年 2021年
３．雑誌名 生涯スポーツ学研究	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 乾 順紀，長ヶ原 誠．
２．発表標題 就学期の運動部活動経験が成人層の運動・スポーツ参画状況に与える影響：成人以降のスポーツ活動の多様化に着目して
３．学会等名 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 三浦 敬太，長ヶ原 誠
２．発表標題 成人のスポーツ参画に影響を与える予測要因の分析
３．学会等名 兵庫体育・スポーツ科学学会第32回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 堀田 禎也，戸根 明音，熱田 希弘，柴田 アンナ，松﨑 淳，三浦 敬太，長ヶ原 誠
２．発表標題 スポーツ参画志向・運動実施状況と主観的気力年齢との関係性－年代(若年層・中年層・高年層)と性別による比較－
３．学会等名 日本生涯スポーツ学会第23回大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	彦次　佳 (Hikoji Kei) (30637062)	関西大学・人間健康学部・教授 (34416)	
研究分担者	谷　めぐみ (Tani Megumi) (50782744)	摂南大学・学長室・講師 (34428)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関